

「ソフトウェア品質保証の肝」 書籍化に向けて

～「ソフトウェア品質保証の極意」と題して、いよいよ発刊へ～

【メンバー】

アズビル株式会社	藤川 昌彦 (PM)	ネバーランド (元株式会社リンクレア)	早崎 伸二 (リーダ)
株式会社構造計画研究所	川田 葉子	富士通株式会社	小島 嘉津江
独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)	北村 弘	源氏企画 (元富士通株式会社)	鎌倉 洋一
株式会社日立ソリューションズ	衣川 潔	G C株式会社	横山 美枝子
株式会社日立ソリューションズ	松本 道春	ピー・シー・エー株式会社	上符 仁司
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	増井 さくら	SOMPOシステムズ株式会社	松波 知典 (発表)

【特別執筆協力】

文教大学 佐藤 孝司

はじめに

私たちは第14期・第15期を通して「ソフトウェア品質保証の肝」の書籍化に取り組んできました。

そして、今夏

「ソフトウェア品質保証の極意

～経験者が語る、組織を強く進化させる勘所～」

と題して出版されることとなりました。

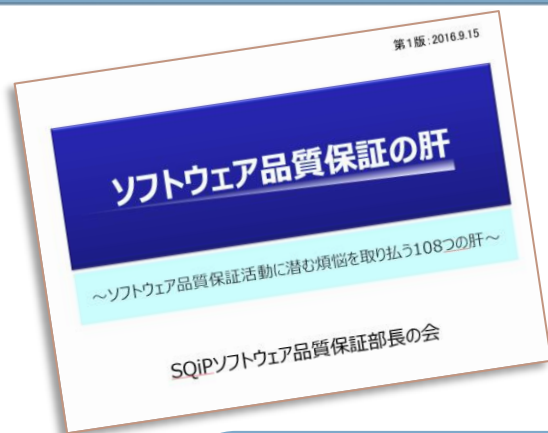
本日は、書籍化に対する私たちの想いと執筆内容、そして、書籍活用のアイデアについてお話ししたいと思います。

第15期より「品質保証部長の会」は「品質保証プロフェッショナルの会」に名称変更しています。本資料は、第14期までと第15期の成果報告を含むため両方の表現を用いています。

目次

1. 「品質保証の肝」って何？
2. 「品質保証の肝」書籍化の目的と方針
3. 書籍「ソフトウェア品質保証の極意」の特徴
4. 想定読者と各章の使い方
5. 各「極意」の構成と記載内容
6. 書籍「ソフトウェア品質保証の極意」の活用方法のご提案

1. 「品質保証の肝」って何？



「ソフトウェア品質保証の肝」とは
「品質保証部長の会」で、2016年に公開した
ソフトウェア開発現場の問題解決に役立つ
「ソフトウェアの品質保証」のためのノウハウ集

**“品質保証プロセス/仕組みはわかっているが、
現場でうまく運用できない”**

- 品質保証部門長の“悩みが尽きない”！
- “わかっちゃいるけど、うまくいかない”！

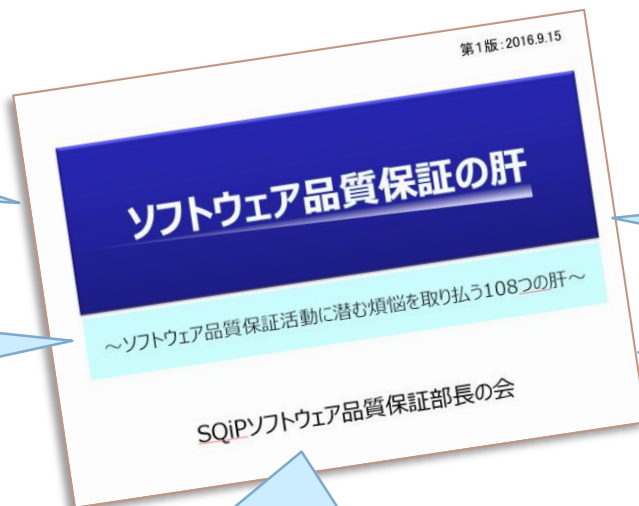


**一方、これらの悩みを、豊富な経験から
解決してきた事例も、たくさん持っている**
⇒これらの悩みと解決ノウハウを収集し、
“肝”として整理した

1. 「品質保証の肝」って何？

品質保証を担っている人間にとって非常に有益な情報

失敗とその解決を山ほど経験してきた！
そんな品質保証部長達の豊富な経験と事例が満載！



心に刺さる
格言が豊富

現場知として、ノウハウが集約されている。
これが一番の魅力！

自身と組織を成長させる原動力になる！

「品質保証の肝」の魅力とはどんなことでしょうか？
読者からの声をご紹介します

最も確かな人材育成の方法は、“先人＝達人”からOJTを受けることだと考えられますが、“達人”の持つ“品質保証の肝”を活用することで効果的な育成が期待できます。

* 達人とは

多くの成功と失敗の経験を抽象化し、勘どころとして身に付け、それを新たなプロジェクトに適用し、プロジェクトを成功に導ける、および、高品質なプロジェクトに仕上げることができる人



1. 「品質保証の肝」って何？

「品質保証の肝」のサンプル

2.2 ライフサイクルプロセスのマネジメント⑤

P

D

C

A

PM

QA

【肝013】テスト見積りは組織としての考え方を統一する

【背景／悩み】

- 結合テスト以降は、プログラムやシステムの実態によりテスト項目の粒度が異なるため、一律な基準を設定することが難しい。
- テスト項目数とテスト工数がどれくらい必要かわからない。従ってテスト工期判断ができない。

【肝の説明／解決のヒント】

- 過去の開発実績データを元に、規模あたりのテスト項目数の基準値を設定する。工数も同様にテスト生産性から算出するか、工数案分を求めて見積る。
- 過去開発実績データを収集していない場合は、IPA（Information-technology Promotion Agency, Japan：独立行政法人情報処理推進機構）の資料等を参考に、組織としての基準を決める。
- テスト工数、テスト工期、テスト生産性、テスト人数等の組織標準が必要となる。
- テストの1項目の考え方を定義しなければ、組織としての標準データを収集できない。従って、画面参照系・画面操作系、帳票系、制御系を分けてデータを収集するとよい。
- 同様に、テストで検出されるバグ数、修正工数、確認工数、設計書改訂工数もデータ収集する。

格言

テストした ああテストした テストした

23

• 108の肝に対して、1肝1ページにまとめて記載

• タイトル（肝の内容）
→悩み解決の勘所

• 背景／悩み
→品質保証上の悩み

• 肝の説明／解決のヒント
→悩みを解決するためのヒント

• 格言を記載し、よりイメージが膨らむようにしている

2. 「品質保証の肝」書籍化の目的と方針

書籍化する目的

ソフトウェア開発現場の問題解決に役立つ
「ソフトウェアの品質保証のための解説書」とする。

読み手の想定

ソフトウェア品質に携わる全ての方
(経営層、プロジェクトマネージャ、ITアーキテクト、
ソフトウェアの開発技術者、ソフトウェアの開発責任者、
品質保証技術者、品質保証責任者、など)

日科技連「品質保証部長の会」が編集することの意味

日科技連「品質保証部長の会」の知見で、日本のソフトウェア業界の
健全な発展に貢献することを目指す。



2. 「品質保証の肝」書籍化の目的と方針

品質の本質

- 普遍的な品質の本質を解説する。

腹落ち

- 現場体験がベースであり、読者が腹落ちする品質施策を「品質保証の肝」を基に分り易く解説する。

羅針盤

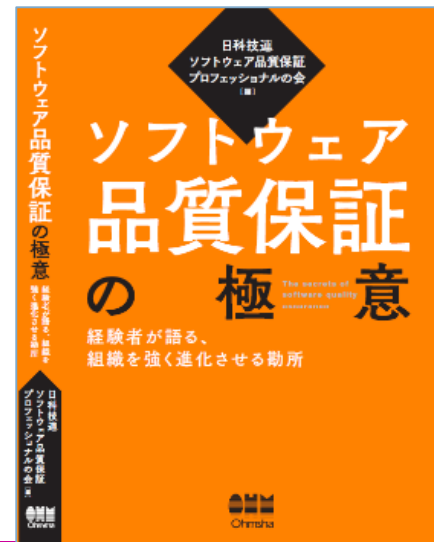
- 改善のヒントを持ち、新たな一步を踏み出す羅針盤として活用できるように、多くの解決策を載せる。

知識体系

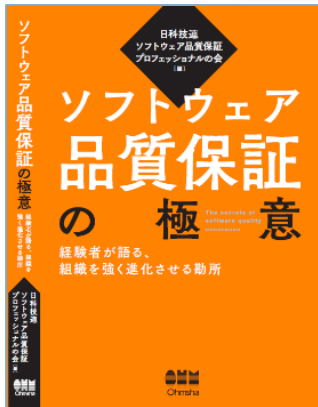
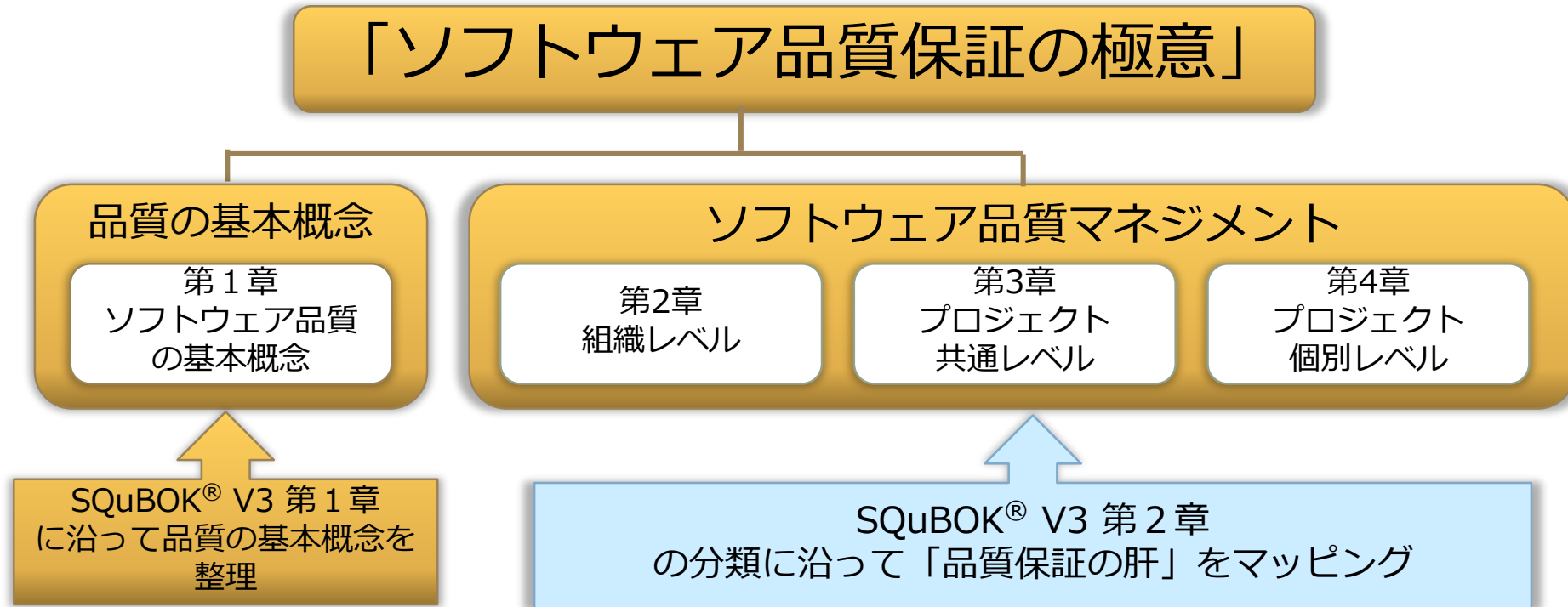
- SQuBOK®V3のソフトウェア品質の知識体系に沿って、ソフトウェア品質マネジメントに対する認識を深め、大切な勘所（肝）が理解できるような文書構成とする。



「肝」から「極意」へ



3.書籍「ソフトウェア品質保証の極意」の特徴



- **「品質保証の肝」を最新のSQuBOK® V3 に対応**
- 品質の基本概念を冒頭に解説
- **読者が手に入れやすい価格設定**
- 時代の変化によらない**「普遍的な肝」**を選定
- 時代の変化に合わせて、VUCA、DXなど、最新のソフトウェア品質の悩みの解決策を極意として追加

装丁：A5版 ソフトカバー
 頁数予定：約200ページ
 価格：3000円前後
 発刊：2024年9月

4. 想定読者と各章の使い方

主な読み手と使い方

各章	第1章 ソフトウェア品質の 基本概念	ソフトウェア品質マネジメント		
		第2章 組織レベル	第3章 プロジェクト 共通レベル	第4章 プロジェクト 個別レベル
主な読み手	品質の基本に立ち返る	組織として品質を保証する仕組みや考え方を理解する	複数のプロジェクトに共通する仕組みや考え方を理解する	個々のプロジェクトの工程別の品質プロセスを理解する
経営層 (CQO)	ソフトウェア品質や品質マネジメントに関する基本的な概念と品質保証の重要性について再認識する	組織的に品質プロセスをマネジメントするうえでの悩みについて、解決のヒントを得る		
品質保証責任者 品質保証技術者			プロジェクトで標準化すべき、品質マネジメントや品質保証技術の悩みについて、解決のヒントを得る	
プロジェクトマネージャ ITアーキテクト			意思決定、リスク管理といったプロジェクト共通の悩みについて、解決のヒントを得る	正しい成果物を正しく開発するためのプロジェクト個別の悩みについて、解決のヒントを得る
ソフトウェアの開発責任者 ソフトウェアの開発技術者				

6.書籍「ソフトウェア品質保証の極意」の活用方法のご提案

本書の活用方法

- ・ 自己研鑽のために使用
本書はSQuBOKの構成に準拠した整理・記載を行っていることからSQuBOKの理解促進や実業務での活用の参考として活用可能
- ・ 社内教育のために使用
 - ✓ 社内研修の教材や動画コンテンツとして展開
 - ✓ グループディスカッションの題材として使用



左記は某A社での活用事例です。
各社の実態に合わせてアレンジして下さい。

6.書籍「ソフトウェア品質保証の極意」の活用方法のご提案

某A社での活用事例

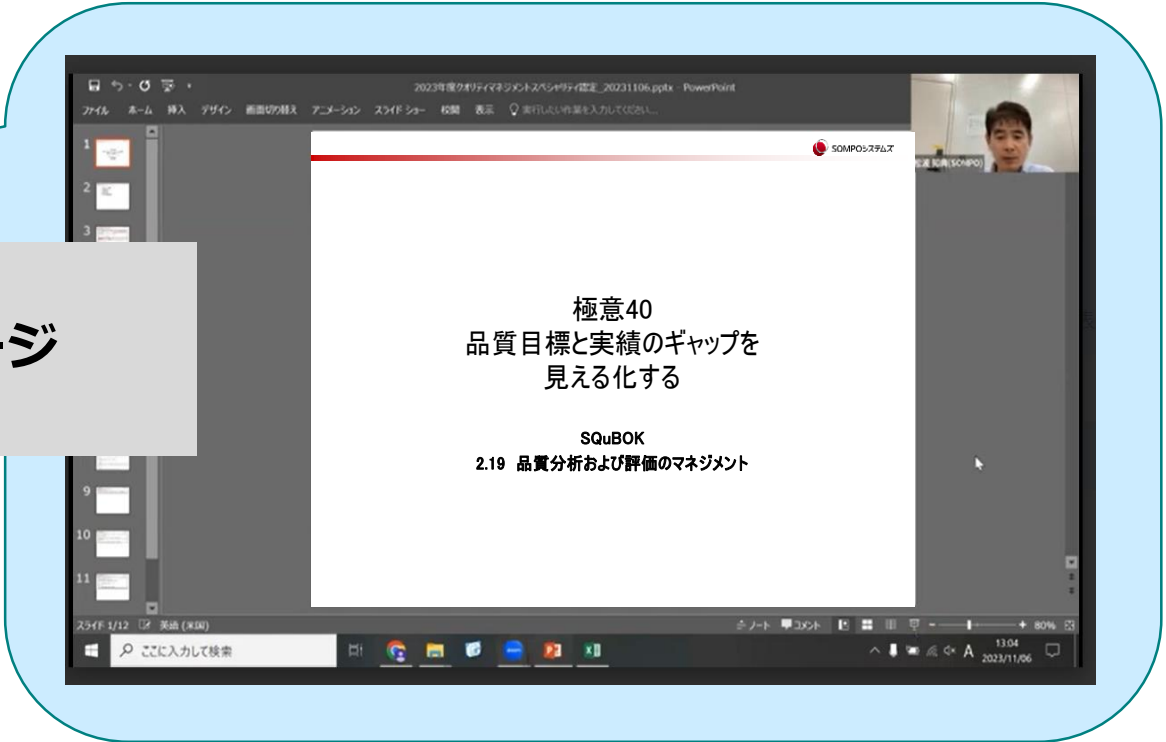
社内研修の教材や動画コンテンツとして展開
 本書はSQuBOKの構成に準拠した記載となっていることから、
 体系的な教育コンテンツの作成が可能

品質向上ポータル

- ▼ホーム
- ▼××ガイド
- ▼教育資料
 - ××研修
 - ××勉強会
 - 品質保証の極意

- 第1回 極意40 品質目標と実績のギャップを見る化する
 リンク：[研修資料](#)、[別紙](#)、[動画](#)
- 第1回 極意41 ××××××××
 リンク：[研修資料](#)、[別紙](#)、[動画](#)
- 第1回 極意42 ××××××××
 リンク：[研修資料](#)、[別紙](#)、[動画](#)

※画像はイメージ



6.書籍「ソフトウェア品質保証の極意」の活用方法のご提案

某A社での活用事例

グループディスカッションの題材として使用

本書は具体事例が豊富に掲載されていることから、各社の実態に合わせて適用すべき「極意」をピックアップして、ディスカッションの教材を作成

ディスカッション課題1

品質要求に応じた品質管理計画とは？

あなたは、現在進行中の大規模プロジェクトに品質管理担当として途中参加することになりました。現在のフェーズは外部設計が終了した段階であり、この後内部設計工程に入ります。ITa工程（ITa、ITb）のテスト計画も並行して策定をすることになっています。当該プロジェクトの特徴は以下の通りです。これを踏まえて、あなたはどのような点に着目して、テスト計画・管理した上で考えて下さい。

<前提事項>

- プロジェクト概要：基幹情報システムの再構築プロジェクトで、システム全体の品質向上を目的とする。
- 内部設計～ITaは請負契約となっており、現時点内部設計を完了している。
- プロジェクト規模：TOTAL開発規模は約10MB、配属された開発者は約100名。 ※プロジェクト内には約10チームのチーム編成がある。
- 参加人数：全社で1000人～1500人/月、配属されたチームは約100名。

<担当するサブシステムの特徴>

- 当該システムの全社システム上の位置づけは後続システムに該当する。
- アウトプットユーザーは契約者・代理店・ビッグユーザー・金融機関等、多岐に渡る。社内ユーザーに関しても、複数の本社管理部門の業務機能を実装している。
- 他サブとのインターフェース数が膨大である。
- オンライン・バッチともに他サブと比較しても所管機能数が多い。
- サイクル性を持ったテストシナリオの確認が必要であり、テストケース数は他サブと比較しても多い。
- 全種目共通処理であるため、機能によってはデータ量が膨大となる。
- 会社決算資料の作成が含まれている。

ディスカッション課題1

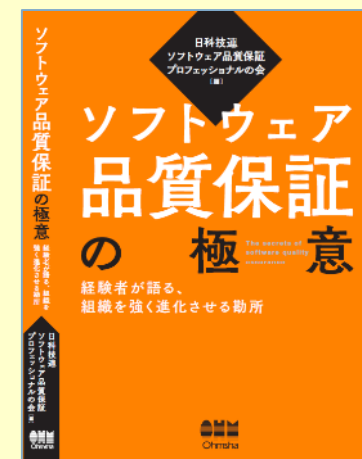
検討シート1-1：品質要求に応じた品質管理計画を考えましょう

分類	品質要求	テスト計画・品質管理計画を立てるにあたって、考慮すべき点
	正確性・信頼性の確保が求められること、データ量が膨大となることから、処理が重い。	有識者によるレビュー計画（専門性の高い開発要員の配置）
	ユーザーが多いことから、業務別処理や部署ごとの役割処理など。	
その他	・（もしあれば・・・）	

※画像はイメージ

書籍「ソフトウェア品質保証の極意」は
ソフトウェア品質に携わる方々の悩みを解決するため、
作成者の経験とノウハウを結集した「品質保証の肝」に加え、
最新の具体的な知見を整理した実用性のある書籍となっています。

皆様が本書を通じて、それぞれの立場における
新たな「極意」を得て、ソフトウェア品質向上の
一助となることを願っています。



**ご清聴
ありがとうございました。**